

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

11章 「終末の王国」

ダニエル書7章

1. はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造 (創1章)
- ②堕落 (創3章)
- ③アブラハム契約 (創12章)
- ④出エジプト (出12章)
- ⑤荒野での律法付与 (出20章)
- ⑥約束の地の征服 (ヨシ1章)
- ⑦ダビデ契約 (2サム7章)
- ⑧王国の崩壊 (2列25章)
- ⑨受難のしもべの預言 (イザ53章)

(2) 前はエレミヤ書31章を取り上げた。

- ① 南王国ユダの最末期
- ② 契約違反による裁きとしてのバビロン捕囚
- ③ 希望が見えない歴史のどん底
- ④ 「新しい契約」の宣言

(3) 今回は、ダニエル書7章を取り上げる。

- ① 歴史書ではなく預言的転換点
- ② 地上の歴史を天の視点から見る章

神は歴史を支配しておられる。

4つのキーワードを学ぶとそれが分かる。

I. 四つの獣 — 人間の王国の本質 (1～8節)

Dan 7:1 バビロンの王ベルシャツアルの元年に、ダニエルは寝床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。それからその夢を書き記し、事の次第を述べた。

Dan 7:2 ダニエルは言った。「私が夜、幻を見ていると、なんと、天の四方の風が大海をかき立てていた。

Dan 7:3 すると、四頭の大きな獣が海から上がって来た。その四頭はそれぞれ異なっていた。

1. 異邦の支配が「獣」として描かれる理由

(1) 神のかたちから逸脱した権力

- ①人間は本来、神のかたちとして理性的・道徳的支配を委ねられていた。
- ②しかし神を離れた支配は、神の性質を反映しなくなった。

(2) 力・暴力・自己神格化

- ①獣は本能で生きる。
- ②同様に、神を認めない王国は、力・恐怖・自己正当化によって支配する。

2. 四つの獣の象徴

(1) 獅子(バビロン)

- ①威厳と力を誇る帝国
- ②ネブカドネツアルの栄華と傲慢を象徴している。

(2) 熊(メド・ペルシア)

- ①片側に偏った支配(ペルシアの主導権)
- ②力による拡張と征服の帝国

(3) 豹(ギリシア)

- ①迅速さと知略
- ②アレクサンドロス大王の急速な征服を思わせる。

(4) 恐ろしい第四の獣(最終的異邦帝国)

- ①小さな角の出現
- ②神に敵対することばと行動
- ③終末的反キリスト像への接続

II. 年を経た方 ― 天の法廷と主権者なる神(9～12節)

Dan 7:9 私が見ていると、／やがていくつかの御座が備えられ、／『年を経た方』が座に着かれた。／その衣は雪のように白く、／頭髪は混じりけのない羊の毛のよう。／御座は火の炎、／その車輪は燃える火で、

Dan 7:10 火の流れがこの方の前から出ていた。／幾千もの者がこの方に仕え、／幾万もの者がその前に立っていた。／さばきが始まり、／いくつかの文書が開かれた。

Dan 7:11 そのとき、あの角が大言壮語する声がしたので、私は見続けた。すると、その獣は殺され、からだは滅ぼされて、燃える火に投げ込まれた。

Dan 7:12 残りの獣は主権を奪われたが、定まった時期と季節まで、そのいのちは延ばされた。

1. 地上の混乱に対する天上の静けさ

- (1) 地では獣が暴れていますが、天では慌ただしさはない。
 - ①神の支配は動じない。

2. 「年を経た方」の描写

- (1) 永遠性・聖さ・裁きの権威
 - ①白い衣、燃える火、無数の従者
 - ②神は時間にも歴史にも制約されない方である。
- (2) 重要な神学的ポイント
 - ①裁きは感情的反応ではなく、正義に基づく判断である。
- (3) 歴史の最終判断は人間にない。
 - ①どの帝国も、自らを永遠とはできない。
- (4) 神はすでに法廷を開いておられる。
 - ①終末は突然始まるのではなく、すでに神の計画の中で進行中である。

III. 人の子 — 真の王国の到来 (13~14 節)

Dan 7:13 私がまた、夜の幻を見てみると、／見よ、人の子のような方が／天の雲とともに来られた。／その方は『年を経た方』のもとに進み、／その前に導かれた。

Dan 7:14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、／諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、／この方に仕えることになった。／その主権は永遠の主権で、／過ぎ去ることがなく、／その国は滅びることがない。

1. 「人の子」の意味

- (1) 単なる人間ではない。
 - ①雲に乗って来られる存在である。
- (2) 神から権威を委ねられた存在
 - ①主権は奪うものではなく、与えられるものである。
- (3) 支配の特徴
 - ①永遠の国
 - ②滅びない支配

③全民族的王権

2. メシア預言としての重要性

(1) 後の福音書理解への橋渡し

①後にイエスをご自身を指して用いられる「人の子」という称号の背景。

IV. 聖徒たち — 王国を受け継ぐ者（16～18節）

Dan 7:16 私は、傍らに立っていた者たちの一人に近づき、このことすべてについて、彼に願って確かめようとした。すると彼は私に答えて、そのことの意味を告げてくれた。

Dan 7:17 『これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王である。』

Dan 7:18 しかし、いと高き方の聖徒たちが国を受け継ぎ、その国を永遠に、世々限りなく保つ。』

1. 驚くべき逆転

(1) 歴史の主役は獣では終わらない。

2. 獣の支配 → 聖徒の支配

(1) 神の国は委ねられる国である。

(2) 聖徒とは誰か

①イスラエルの残れる者

②メシアに属する者たち

3. 王国神学の核心

(1) ダニ 7章と黙示録の連続性

(2) 地上の王国の終焉と神の王国の完成

(3) 新天新地への流れ

(4) 一時的支配 → 永遠の支配

(5) 混乱 → 義と平和

結論：今日の信者への適用

1. 自分は「どの王国に属して生きているのか」を自覚する。

(1) 世界には二つの支配原理が並行して存在している。

- (2) 地上の王国：力・恐怖・自己正当化によって支配する「獣の王国」
- (3) 天から与えられる王国：神の主権と正義に基づく「人の子の王国」
- (4) 自分はどの王国で生きているか。これが信仰生活の出発点である。

2. 目に見える権力や時代の動きに過度に振り回されない。

- (1) ダニエル書 7 章では、地上では獣が暴れている。
- (2) しかし天では、すでに法廷が開かれ、裁きが進行している。
- (3) 神の主権は一度も揺らいでいない。

3. 力によらず、忠実さによって生きる。

- (1) 王国を受け継ぐのは、「いと高き方の聖徒たち」である。
- (2) 彼らの特徴は、神に属し続けたことである。
- (3) 社会の中で少数派であっても、神の王国は彼らに委ねられる。

4. 新天新地を見据えて、希望をもって忍耐する。

- (1) ダニ 7 章は、新天新地への直接的描写ではない。
- (2) しかし、そこへ至る決定的な転換点を示している。
- (3) 神の国というゴールを知っているからこそ、希望をもって今を生きる。